

### 赤ちゃん誕生に 助産師は喜びを実感

産科の休止により、助産師は別々の部署で仕事をしていたが、早期再開を夢見て、定期的に集まり会議等を重ねてきました。

6月に産科再開が決まり、再び出産のお手伝いができる喜びとお母さんに安心して出産していただきたいの思いから、夜遅くまで各種マニュアルの見直しや先生方との打ち合わせなど様々な準備をしてきました。

再スタートの準備も大変でしたが、再開後、初めての赤ちゃんが誕生の瞬間、今までの苦労が飛んでしまったといえます。そして、改めて助産師として働くことの素晴らしさを実感したそうです。



(写真) 産科病棟の再オープン式から

### 分娩の予約について (3月分は受付終了)

当院では安全・安心してご出産していただくため、受入制限を設け分娩の予約をお受けしています。

- 分娩の受入数  
年内が月30名、平成20年1月以降が月40名
- 予約できる方  
本人または両親が市内にお住まいの方

■受付時間  
午前8時～11時(分娩予約は午前9時～11時)

### ■受付場所

産婦人科外来窓口  
※10月15日現在、平成20年3月分は受入人数を超えたため、申し訳ありませんが分娩予約はできません。

※妊婦健診等の産科外来も始まり、今後、分娩予約を希望する方が大幅に増え混雑することが予想されます。事前に予約状況を電話等で確認いただき、お早めにご予約をお願いします。

### 産科情報は ホームページで

市立病院のホームページから産科の診療案内、分娩の予約状況、産科施設紹介、産科Q&A集などがご覧いただけます。  
<http://www.soka-city-hospital.jp/>  
詳しくは、産婦人科外来へ。☎946・2200

## 産科再開に寄せて

東京医科大学  
周産・女性診療科

教授 久保田 俊郎



産科が再開されましたことを心より喜び申し上げます。

現在の産婦人科医療は、臨床レベルの進歩に反比例して医師数と施設数の不足が著しく、これまで経験したことのない深刻な危機に

陥っております。都心でも産婦人科医が確保できず、分娩を扱う病院は規模の縮小や閉鎖を余儀なくされている状況です。

こうした中、草加市立病院が5名の医師を確保し、産科を再開しましたことは、同じ悩みを抱えた多くの自治体病院の良い手本になるものと高く評価しております。

これもひとえに再開を望む市民の皆さんの後押し、

高元病院長をはじめとした病院側の熱意と努力の賜であると敬意を表する次第です。

当大学の関連病院として当直医の派遣など、できる限りの支援を行ってまいります。たいと考へおられますので、市民の皆さんも暖かく見守っていただければと思っております。

終わりに、地域の中核病院として益々発展することを願っております。

# 信頼されるより良い病院を目指して

## 市民の皆さんの声にお答えします

当院では、市民の皆様のご期待にお応えし信頼されるより良い病院にするためには、皆様の声に耳を傾けることが重要と考えております。そこで、オレンジ色のエプロンを着けて患者さんの「ご案内などをしていただいている院内ボランティア」「マーガレット」の皆さんにお集まりいただき、「日ごろ「患者さんからよく聞かれること、疑問に思っていること」などについて、当院の高元病院長、武井看護部長、宮野事務部長に質問していただきました。

### Q1 予約しているのになぜ待たされるのですか？

当院は、患者さんの待ち時間を少なくするため、予約制を導入しています。しかし、地域の診療所に比べ、当院では専門的な治療や検査を必要とする患者さんが多いため、どう

### Q2 奈良県で妊婦さんが病院から受け入れ拒否され、流産したことが問題になっていますが、市立病院の受入体制はどうなっていますか？

当院の産科は、10月から常勤の医師5名体制でスタートしました。診療日はもちろんのこと、夜間・休日についても、関連大学の応援も得て当直体制を組んでいるため、分娩や手術中などを除き、救急搬送の妊婦さんをお引き受けすることが可能です。

### Q3 二次救急ってなんですか？

救急医療は、患者さんの疾病や損傷の程度により一次救急・二次救急・三次救急の三段階に分けて整備されています。風邪や腹痛などの初期治療は一次救急(休日当番医、夜間急患診療所)、入院治療や手術を要する重症度の高い場合は二次救急(市立病院等)、高度な医療が必要な重症患者の場合は三次救急(救命救急センター)

### Q4 救急なのに市立病院はなぜ受け入れてくれないのですか？

当院の救急体制は、小児科、内科系、外科系および産婦人科の医師が365日24時間体制で対応しています。そのほか、脳神経外科は週4日の当直およびオンコール(待機)体制をとり救急医療に重点をおいています。

### Q5 マスコミ等で全国的な医師不足が取り上げられていますが、市立病院は大丈夫なのですか？

市立病院は、大学病院から派遣された多数の医師により支えられています。しかし、新しい医師の研修制度により、新卒の医師は待遇のいい都市部の大病院に集中するという傾向が強くなりました。そのため当院では、すべての診療科に十分な医師が確保されている訳ではありませんが、現在は東京医科大学から多くの医師が派遣されており、比較的恵まれた環境にあります。

### Q6 看護師は足りているのでしょうか？

看護師不足は当院にとりましてたいへん深刻な問題です。産科の再開もあり、看護師不足が続けば、最終的には患者さんへのしわ寄せが心配されます。命と接する職業だけに、負担を患者さんに転嫁することは許されません。当院では、採用条件を大幅に緩和するなど、看護職員の確保に全力で取り組んでおります。



患者さんを介助するボランティア



というように役割分担がされています。

また、幸いして、経験豊かな産婦人科医も確保し、10月から待望の産科を再開することができました。小児科も、365日24時間救急診療を行っていますので、ご安心ください。



また、高度な医療が必要な重症患者さんの場合は、救急隊の判断で救命救急センターに搬送されるケースがあることをご承知ください。

当院では、今後、救急診療科専属スタッフの増員を図り、今以上に救急医療の充実を図りたいと考えております。

皆さんのお近くに看護師資格をお持ちの方がおりましたら、「市立病院は看護師を募集している」とひと声おかけください。